



佐藤 未雲

スペースチャイナ  
代表取締役

「ホスピタリティ」という言葉は、「思いやり」「心もてなし」という意味である。過日、台湾における語学研修やインターンシップを体験したスペースチャイナの生徒たちは、身を持ってこの言葉の意味を知ることができたようだ。

生徒たちに幅広く中国語圏の暮らしを見てほしいという思いもあって、今年には研修地に台湾を選んだ。大学における授業が何とかなせるようになると、現地の生活を楽しむ余裕もでてくる。

どこかへ行こうということになり、地図を広げていると、地元の人が側に寄ってきて「どこへ行きたいですか？」と声をかけてくれた。片言の日本語と身ぶり手ぶりで案内してくれたのである。別の日、また地図を広げていると必ず誰かが「どちらへ」と声をかけてくるのであった。

3日も滞在すれば、MRT（地下鉄）にも慣れて一人で外出ができるようになる。

# 南風

## ホスピタリティ

る。MRTには「愛心譲座」という思いやり席があり、お年寄りに席を譲ったり、目の不自由な人の手を引いて席まで案内するという光景を何度も目にした。このごく日常的な光景は沖繩の生徒の心に強い印象を与えたようである。

沖繩では、デパートやスーパーで買い物をする中国人観光客の姿を最近よく目にするようになった。ある時、明らかに中国人観光客とわかる相手に、エコバッグを持っていかと尋ねている店員さんを見かけたことがある。マニュアルに沿った対応かもしれないが、誰にでも機械的に同じ言葉をかけるといのはどんなものだろうか。

ホスピタリティとは、その地を訪れた人に不安を与えないよう、歓迎する心を示すことだと思う。今回の研修で学んだホスピタリティ、観光立県をめざす沖繩のもてなしにそれをどう生かしていくか、大きな課題である。